

藍住東小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

たしかな学力をはぐむ学習指導の充実
— 自分の思いや考えを伝え合う力の育成 —

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 3年主任 吉山 京子	委員	校長 川端 通俊	教務主任 4年主任 5年主任 特支主任	宮本 真吾 森本 美緒 和田 淳子 和田 和子
		教頭 榎田 敏宏		
		研修・6年主任 小倉 晃子		
		1年主任 三好 岩井		

校長
川端 通俊

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 漢字の読み書きや計算の基礎・基本についてはある程度の定着が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ②語彙数が増え、正確に文章を読んだり書いたりすることができる。 ③注意深く話を聞き、内容を理解することができる。	・学期末の漢字・計算テストで正答率を80%以上にする。 ・全国調査・ステップアップテストで平均正答率が県平均以上にする。		・ドリルタイムを利用して、漢字・計算の練習に取り組み、学期末だけでなく単元の終わりにも、テストをした。 ・ノートを点検し、模範になるノートを掲示して奨励する試みをした。	・学期末の漢字テスト、計算テストで正答率が80%を超えている児童が8割はいる。 ・全国調査・学力テストで全国平均を上回っている学年もあるが、下回っている学年もある。
課題 ・語彙数が少なく、問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。 ・聞く態度が充分でない児童がいる。	①ドリルタイムに漢字や計算を継続的に指導し、確認テストを行う。 ②国語辞典の利用を習慣づける。 ③ノート指導を充実させたり、聞き方話し方名人を活用するなど言語環境を整える。	・定着確認テストを単元ごとに行い、成果を把握し指導に生かす。 ・一週間に全員のノートを点検する。		評価 B ・学年差があるので、今後はドリルタイムの活用の仕方を学年単位で話し合い、取り組むべき内容を計画的に行う必要がある。 ・学年ごと教科ごとに大体の様式を決め、さらにきめ細かいノート指導を行う。	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・全体での発表やグループ学習などで、自分の思いや考えを発表する児童が見られる。 ・進んで読書をしている。	①自分の思いや考えを整理して伝え合うことができる。 ②進んで本を読み、知識を増やし想像力を高めることができる。	「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」(児童質問紙)の割合を60%以上にする。		・ペアやグループ学習の機会を多く取って、全体の中では自分の意見を発表しにくい児童にも発表できるようにした。 ・長文問題、文字数を指定して書く活動に取り組んだ。	・単純なことも含めると発表回数は増えてきたが、説明することは苦手の児童がいる。 ・学年が上がるにつれて、書く活動に親しんで抵抗がなくなってきた。
課題 ・自分の考えや思いを筋道を立てて説明したり文章に書いたりすることに課題がある。 ・文の内容を正しく読み取る力をつける必要がある。	①英語や1分間スピーチなど表現する機会を設ける。 ②学習活動の中で自分の考えを筋道立てて書いたり話したりする機会を増やす。 ③読み聞かせや読書の時間を確保する。	・筋道を立てて自分の考えを発表する機会を一週間に1回以上設ける ・読み聞かせを毎週一回は行う。	自分の思いや考えを話すだけでなく、書く活動を意図的に取り入れるようにする。	評価 B ・児童にとって必然性のある場面を設定する。 ・授業形態や方法を工夫して、自分の考えを自分の言葉で話したり、書いたりする活動をさらに多く取り入れる。	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・宿題を提出することや朝の読書は定着してきている。 ・与えられた課題にまじめに取り組む児童が多い。	課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じ取ることができる。	・学年に応じた家庭学習時間(学年×10分)以上取り組む児童を80%以上にする。 ・宿題の提出率を90%以上にする。		・家庭学習の状況は毎日調べて、宿題の提出できない児童にはできるように指導を続けた。 ・自主学習の手引きを配布して、継続した自主学習をするようにさせた。(3年以上)	・宿題の提出率は、どの学年も目標の90%を達成することができている。
課題 ・学習に根気強く取り組んだり疑問に思ったことを追求しようとする意欲が少ない。 ・学習準備がきちんとできない児童がいる。	①取り入れた体験活動で得た興味関心を学習意欲につなげる。 ②ICTを効果的に活用する。 ③宿題の出し方を工夫するとともに「学習ヒント集」を活用して家庭への啓発を進め、家庭学習の習慣化を図る。	①一週間の中で、全ての児童の意欲的な活動を賞賛する。 ②家庭学習の状況を調べ、学期に1回は学年通信等で保護者への協力を呼びかける。		評価 A ・年度始めに配布した学習ヒント集の活用を図る。 ・学年便り、学年懇談会などで、家庭と連携し、家庭学習の定着をはかる取り組みを強化していく。 ・宿題に関しては、目標指標を達成することができたので、今後は質の良い自主学習ができる児童を増やしていく。	次年度における改善事項

平成30年度 学力向上ロードマップ



